

阿部洋先生を偲ぶ会の記録 ——一周忌追悼の集い——

「阿部洋先生を偲ぶ会」実行委員会整理



阿部 洋 先生（1931 年 6 月—2025 年 1 月）
福岡県立大学 名誉教授
2019 年 5 月 29 日「阿部洋先生を囲む会」にて撮影

2025 年 1 月、著名な教育史研究者である阿部洋先生がご逝去されました。先生のご逝去一周年にあたり、門下生と研究関係者が集い、阿部先生との思い出を語り合いながら、そのご功績とお人柄を偲ぶ機会として、本会を開催いたしました。

本稿は、当日の語らいをもとに、阿部洋先生への感謝と追悼の思いを記録としてまとめたものです。

開催 概要

- 日時：2026 年 1 月 31 日（土）12：00～14：00
- 会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 19 階
- 参加者（敬称略）：新保敦子、潘吉玲、孫佳茹、金子聖仁、見城悌治、胡穎、周一川、高田幸男、譚皓、山本一生、李曉東
- 実行委員会：孫安石（企画・統括）、郭夢壺（記念冊子・PPT 制作）、黃亢亢（会場設営）

偲ぶ会 次第

- 一. 開式の辞（司会者挨拶）
- 二. 黙禱（全員起立のうえ、故人を偲ぶ）
- 三. 故人略歴の紹介および思い出の映像
 - 1) 「我が教育史研究を振り返る」阿部洋先生（福岡県立大学名誉教授）
 - 2) 2019年5月29日「阿部洋先生を囲む会」
- 四. 阿部洋先生の思い出を語る
- 五. 献杯と会食
- 六. 記念撮影
- 七. 閉式の辞



偲ぶ会の記念写真

阿部洋先生の思い出を語る（発言順・敬称略）

新保敦子（早稲田大学）——阿部洋先生が繰り返し語っておられた「研究は山登りと同じである」という言葉と、弟子の育成に力を注いでおられたお姿が思い出されます。阿部門下の弟子はもちろん、その学生である孫弟子に至るまで、懇切丁寧に指導されていたことは忘れることができません。個人的な思い出としては、1985年頃、『日本の教育史学』に投稿した論文に対し、原稿が真っ赤になるほど詳細なコメントを書き込んでくださったことが強く印象に残っています。阿部先生とも話題にしたことですが、今後の課題として、日本の優れた教育研究を英語で発信していくことが実現できればと願っております。

潘吉玲（浙江越秀外国语学院）——阿部先生にとって孫弟子に当たる世代ですが、先生が主催された勉強会「金曜会」に参加しました。博士論文の最終段階では、週一回のペースで先生の自宅近くの施設に集まり、昼食におにぎりを食べながら原稿の読み上げを続けたことが思い出されます。

金子聖仁（東京大学大学院）——現在、「対支文化事業」の研究を博士論文のテーマとして準備しています。学部時代から阿部先生の著作を通して学んできたご縁もあり、今回の偲ぶ会に参加しました。

山本一生（東洋大学）——阿部先生と初めてお会いしたのは、早稲田大学の植民地教育を扱った研究会でした。資料整理を「カード」を用いて行っている点が共通の話題となり、学閥ではなく研究テーマを軸にした交流を大切にされる先生であったことが印象に残っています。

胡穎（神奈川大学）——日中の教育史研究を続けてきた研究者にとって、阿部先生は常に「あこがれ」の存在でした。

周一川（元日本大学）——研究を通じて阿部先生との交流が始まり、アメリカへの中国人留学生との比較研究の必要性について助言をいただいたほか、論文査読でもお世話になりました。また、九州大学での会議の際に、「私の本を読んだのは周さんだけだね」と声をかけていただいたことも、今なお忘れられません。

譚皓（天津大学）——阿部先生は、中国・大連の遼寧師範大学の楊曉教授と研究交流を行っておられました。遼寧師範大学の学部を卒業し、「日本人の中国留学」をテーマに博士論文を書くにあたり、阿部先生の著作を大いに参考にしました。

李曉東（愛知大学）——修士課程での研究テーマが中国人留学生と日本の軍事留学であったことから、阿部先生とのお付き合いが始まりました。2000年頃には国立教育研究所を訪れ、丁寧なご指導をいただきました。その際、「資料はどんどん見てください」と勧めてくださり、学問と研究に対して常に開かれた姿勢をお持ちで、人間的にも包容力の大きい先生であったことを改めて思い起こします。

郭夢垚（神奈川大学）——後進として、阿部洋先生と初めてお会いしたのは2019年でした。当時は「囲む会」の準備に携わり、博士後期課程に進んだばかりであったため、直接ご指導を受ける機会はありませんでしたが、研究においては阿部先生のご著作から多くを学ばせていただきました。そして本日も、偲ぶ会の実行委員の一人として、この記念冊子とPPTの作成を担当しました。微力ではありますが、心ばかりの思いを込めた次第です。

見城悌治（千葉大学）——日本史研究を専門とする立場から見ると、阿部先生の著作は日中関係史研究を進める上での重要な指南書でした。個人研究の重要性はもちろんのこと、「チーム研究」の大切さを繰り返し強調されていたことが印象に残っています。

高田幸男（明治大学）——1993年頃、蔭山さん〔蔭山雅博〕の紹介で「アジア教育史学会」に入会したことが、阿部先生とのご縁の始まりでした。常にエネルギーに活動されていた先生のお姿を思い出します。阿部先生の偉大さは、「組織的」な研究を進めることの重要性を一貫して説いておられた

点にあります。

孫安石（神奈川大学）——直接の阿部門下ではありませんが、実藤恵秀先生を第一代、その後の阿部先生の研究を第二代として位置づけ、第三世代の研究を大里先生とともに神奈川大学で進めているという意識を持ってきました。その思いから、皆さまに偲ぶ会開催を呼びかけることとなり、阿部先生にささやかながら感謝をお伝えする機会となりました。

孫佳茹（千葉大学）——阿部先生の孫弟子に当たる世代であり、月に一回の勉強会「金曜会」では大変お世話になりました。中国のボーイスカウトをテーマとする博士論文の最終段階では、毎週のように原稿の読み上げが続きました。ご指導は時に午前10時から夕方まで及び、博士論文審査の模擬練習までしていただいたことを思い出します。留学生に対しても常に寛大な姿勢で接してくださり、当時は体力の衰えを感じさせないほどお元気でした。博士論文完成後も、研究の方向性や出版に向けた助言をいただきました。阿部先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

中国からの追悼メッセージ

田正平（浙江大学文科資深教授）——阿部洋先生毕生致力于日中文化教育交流研究，在中国留学生教育，日本教习派遣，中国近代学校教育史研究以及这些领域中两国青年学者的培养等方面做出了重要贡献，他的业绩是留给后人的一笔宝贵财富，他的精神将被后人铭记。

周棉（江蘇師範大学教授）——謹代表中国江苏省和陕西省哲学社会科学重点研究基地留学生与中国现代化研究基地，向阿部洋先生的在天之灵致敬！相信他的精神和事业永存！祝中日，中韩人民的友谊世代相传！并请孙安石教授转达我对阿部洋先生家属的亲切问候和友善祝福！

楊曉（遼寧師範大学教授）——1987年，在王桂教授引领下，我进入中日教育关系史研究领域，开始学习日文并系统研读阿部洋先生关于近代中国教育及东亚殖民地教育的著述，其深厚学术成果成为我后续相关课题研究的重要参照，对我三十余年的研究产生了深远影响。2004年4月，在浙江大学举办的“教育交流与教育现代化国际研讨会”上，我首次聆听先生关于日本“对华文化事业”的专题报告并合影留念。此后通过书信与邮件往来，更深切感受到先生严谨治学与谦逊人格。先生虽已离去，但其学术精神与中日文化教育交流事业必将薪火相传，生生不息。



2004年4月，浙江大学「教育交流与教育现代化国际研讨会」記念写真
（左から右：佐野通夫，佐藤尚子，阿部洋，王桂，楊曉）